

学校教育

1 施策の概要

(1) 教職員の資質向上

学校教育に直接携わる教職員は、児童生徒の人間形成に極めて大きな影響を与えます。このため、学習指導の工夫・改善をはじめ、学級経営の充実や生徒指導の在り方など、学び続ける教職員を支援するために各種研修会への積極的な参加を奨励します。

また、教育センターでは現場のニーズに応じて、

- 教育センター講座…今日的な課題をテーマに、指導法や対応について学ぶ
- 教育相談講座…より深い児童生徒理解を希求する
- 学校教育相談研修会…児童生徒の持つ不安や悩みなど様々な問題の解決に向けて、学校が組織的に対応する際のリーダーを育成する
- 小学校理科実技研修会…小学校教員を対象に、理科実験の基礎、観察のポイント、安全指導等について学ぶ

等の研修会を開催しています。

(2) 特別支援教育の推進

特別な支援を必要とする児童生徒の就学・教育活動を支援します。

LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）、自閉症スペクトラムなど、障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や支援を行います。

そのため、特別支援教育コーディネーター対象の研修会を開催し、特別支援教育コーディネーターの資質向上と校内組織の充実を目指しています。また、特別支援教育に関して専門的な知識や経験を有した特別支援教育巡回指導員4名を教育センターに配置し、学校からの要請に応じて巡回相談を実施します。

さらに、個々の障がいの種別や程度に応じた適切な教育がなされるよう、特別支援学級等に在籍する児童生徒の障がいの程度や人数に応じて、養護補助員を配置しています。本年度は41名の養護補助員を21校へ配置しています。

また、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援を充実するため、平成20年度から特別支援教育支援員を配置しており、本年度は20名の特別支援教育支援員を20校へ配置しています。

(3) スクールカウンセラー・小学校教育相談員の効果的な活用と充実

市内全学校にスクールカウンセラーが配置され、さらに市として拠点となる小学校10校と義務教育学校2校に教育相談員を配置し、児童生徒へカウンセリング等を行うとともに、教職員及び保護者への助言・援助を行う等、効果的な活用とその充実を推進します。

また、教育相談員やスクールカウンセラー、関係校教職員等からなる不登校児童生徒支援ネット

ワーク連絡協議会を設置し、教育相談の理論と技能を習得し、児童生徒のもつ様々な問題解決に向けての指導力の育成を図るとともに、小中連携やフリースクールなどの外部機関との連携など、効果的な教育相談体制の確立に努めています。

(4) 学校体育の充実

児童生徒が生涯にわたり心身ともに健康で楽しく明るい生活を営むための健康の保持増進や体力の向上を図ります。近年、子どもの基礎体力の低下が叫ばれていますが、本市においても、このことを重要な課題として受け止め、児童生徒が自ら進んで体力の向上を目指した体育的諸活動の充実を推進します。

そのために、児童生徒が生涯にわたって運動に親しむための資質や能力を育むため、体育の授業の充実や教員の指導力向上を図ります。

さらに、学校プール施設の老朽化に伴い、学校外施設の活用を進め、本年度は、小学校1校と義務教育学校1校が市内水泳施設を利用し、小学校6校が民間水泳施設に委託をしています。

そのほか、運動部活動の顧問教諭による技術指導が困難な学校に対して、専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣し、運動部活動等の更なる充実及び活性化を図ります。本年度は中学校8校に、19名の指導者を派遣しています。

令和4年度からは、「成田市『部活動の地域移行』に関する協議会」を設置し、部活動の地域移行について検討を進めており、令和5年度9月にモデル事業として、西中学校を活動場所とした柔道の地域クラブ活動を開始し、令和6年度9月からは全ての中学校と義務教育学校において、1クラブ以上が活動する第2期モデル事業を実施しました。また、令和7年度新人戦終了後より市内を4つの拠点に分け、それぞれの拠点において複数のクラブが活動する第3期モデル事業を実施し、順次35クラブを開設する予定です。

(5) 安全教育の推進

心身の発達に応じた安全教育を推進し、児童生徒の安全意識を高めるために、各校の実態に応じた学校安全計画及び危機管理マニュアルの作成、安全点検や安全に関する指導（不審者対応訓練や避難訓練の実施、交通安全教室の開催等）の充実を図ります。

また、地域や保護者との連携を図りながら、学校内外の安全教育の充実と安全管理の徹底に努めます。なお、本市では、日本スポーツ振興センター法の共済掛金を市費で全額負担するとともに、中学生の自転車通学用ヘルメット購入費の半額程度を補助します。

子どもの登下校や戸外での活動の安全性を高めるために、小学校及び義務教育学校1年児童に通学用帽子とランドセルカバーを無償配布するとともに、児童生徒の希望者に防犯ブザーを貸与します。

また、防犯・安全情報等は「なりたメール配信サービス」や市内統一の保護者連絡システムを通じて保護者に連絡します。

件名
防犯・安全情報
本文
教育委員会から地域の皆様にお願いたします。子どもたちの下校時間になります。下校中の安全対策、見守りに御協力をお願いいたします。 児童生徒のみなさんも、交通ルールを守り、安全に下校しましょう。 成田市教育委員会 教育指導課 0476-20-1582

防犯・安全情報を配信



通学路合同点検

さらに、関係機関や関係各課と連携を図りながら、「成田市通学路交通安全プログラム」をもとに成田市通学路安全推進連絡協議会を組織し、交通安全・防犯の両面から通学路における危険箇所の改善に取り組み、より一層の登下校の安全確保を図ります。

（６）情報教育の推進

１人１台端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備し、個別最適な学び・協働的な学びを充実し、授業改善につなげるよう、ＩＣＴ教育の推進を図ります。

各学校に、ＩＣＴ支援員や指導主事を派遣し、学習者用端末、大型ディスプレイ、デジタル教科書等の効果的な活用について、助言・指導を行い、教職員の資質や技能の向上を図ります。

また、情報セキュリティや情報モラルについては、スマートフォンやＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーク・サービス）上のトラブルの実態とそれを防止するための指導の在り方について、警察・専門業者・ＮＰＯなどの研究団体と協力して児童生徒、保護者への啓発を図るよう、資料の提供や研修会の開催を推進します。

（７）学校施設の管理と整備

学校施設の保守点検や修繕をはじめ、老朽化や教育環境の変化に対応するための改修工事を計画的に行うとともに、児童生徒の増加による教室不足が想定される場合には増築工事を実施します。

また、バリアフリーに配慮した整備や温室効果ガス削減の効果が大きい太陽光発電の導入も進めています。

（８）特色ある学校づくりへの支援

保護者・地域住民から学校運営の状況についての関心が高まり、地域とともに歩む学校づくりを推進するとともに魅力ある学校教育が求められています。また、ＧＩＧＡスクール構想の実現や学習指導要領で求められる資質・能力の育成など、学校の在り方の変革が求められる中で、自主的、創造的な取組を通じ、教育活動の特色化、活性化を推進することが重要になっています。

このため、校長の裁量により、専門家を招いた授業の実施や、地域と連携したボランティア活動等の体験を行うなど、各学校のマネジメントに応じた特色ある学校経営が推進されるよう、引き続き支援を行います。

（９）学校問題解決支援事業

学校に寄せられる様々な苦情、要望等のうち、学校の対応や取組だけでは解決が困難で、対応に法的、専門的な知識や経験を必要とする案件の問題解決を図るため、成田市学校問題解決支援チームを設置しています。

本チームは弁護士、公認心理師、精神科医等の各分野の専門家で構成し、より高度で専門的な相談体制を確立して、児童生徒をめぐる問題等が長期化、複雑化することを防止し、解決に向けて対応することにより、学校の負担軽減を図り、学校本来の役割である教育課程や生徒指導等の推進、児童生徒と向き合う時間を十分に確保できるよう学校を支援します。

また、いじめによる自殺などの重大事態が発生した場合に備えて、平成26年度からチーム内に「成田市いじめ専門部会」を設置しています。

(10) 特認校支援事業

令和3年4月から豊住小学校は、「小規模特認校」となりました。少人数ならではの、きめ細かな指導や地域の特性を生かした活動など、特色ある教育を行う学校を「小規模特認校」とし、そのような環境で学びたい（子どもを学ばせたい）と希望する場合に、一定の条件のもと市内全域から通学を認めています。

豊住小学校では、これまでも恵まれた自然環境や、地域の歴史と伝統を生かした教育を推進してきましたが、「小規模特認校」となったことにより、さらに特色ある教育づくりを進めていきます。



I C Tを活用した学習



英会話課外活動



全校栽培活動



全校徒歩遠足

2 教育センター

教育センターは、学校関係職員の研修、校内授業の支援、教育資料及び教材の収集・作成並びに活用、特別支援教育及び教育相談等の業務を行います。

(1) 学校支援の推進

教職員の資質向上のため、各種研修会の企画・運営や様々な教育関係情報の収集と提供を行います。また、教育センターだよりを発行し、本市の教育情報や成田市学力調査の結果や考察等を市内教職員で共有しています。

各教科・特別の教科 道徳・特別活動・総合的な学習の時間・特別支援教育等の書籍を整備して、図書の貸出しや教職員の様々な要望に対するレファレンスサービスを行うとともに、学習用資料・教材作りの支援等も行います。

(2) 特別支援教育の推進

担当指導主事と学校適応専門指導員が就学前の子どもを持つ保護者の相談にあたります。成田市では、「成田市心身障害児教育支援委員会」を年4回開催し、就学に関する専門的な意見を関係者から伺いながら、保護者と就学先についての相談を行います。教育委員会では、就学後のフォローアップとして、必要に応じて、子どもの発達や適応の状況等を勘案しながら、在学中も学びの場について関係者と共通理解をしたり見直しをしたりするなど機能の拡充を目指しています。

また、通常の学級に在籍するLD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）等を含めた発達障がいなどのある子どもたちの適応上の課題等への対応について、担当指導主事、特別支援教育巡回指導員が学校に出向き、教職員や保護者への相談・支援を行います。

医療行為等が必要な児童生徒の学校生活を支援するため、教育センターに巡回看護師を4名配置しています。

(3) 教育相談

教育センターと教育支援センターに1名ずつ臨床心理士（1週間に1日程度）を配置し、担当指導主事と共に不登校等に悩む児童生徒や保護者、教師を対象に相談活動を行います。

また、いじめや不登校、問題行動等心の問題を抱える児童生徒に対応する教師のスキルを高めるための校内研修会及び校内事例検討会等に、講師や助言者として、指導主事等を派遣します。

(4) 社会科副読本「わたしたちの成田市」等の作成、配布

児童に地域社会の一員である自覚や地域社会に対する誇りと愛情が培われるよう、小学校3・4年生の社会科副読本「わたしたちの成田市」、指導の手引き、白地図等の改訂作業を毎年行い、大きく発展する成田市及び周辺地域の現状に即した資料の提供をする等、地域学習資料の充実を図ります。令和5年度に副読本をデジタル化し、令和6年度よりタブレット端末で閲覧できるようになりました。

3 教育支援センター(ふれあいるーむ21)

教育支援センターでは、学校等に登校できない状況にある児童生徒が学校復帰や社会的な自立ができるよう支援を行うとともに、教育相談業務を行います。

児童生徒の支援にあたり、専任の指導主事を1名配置するとともに、8名の指導員を配置します。また、通所する児童生徒一人ひとりにきめ細かく対応するため、臨床心理士を配置（1週間に1日程度）し、児童生徒及び保護者にカウンセリングを実施するとともに、家庭から出られない児童生徒のために、巡回指導員を配置し、家庭訪問等の支援を行います。さらに、様々な講師の助言を受け月1回程度実施するケース会議や、担当指導主事・指導員の学校訪問等により、各学校との連携を密にするなど、児童生徒の学校復帰の足がかりとします。



教育センター・教育支援センター



教育支援センター（ふれあいるーむ21）

4 各学校・幼稚園の特色



成田市立成田小学校
(創立 明治6年)

児童数 597人
学級数 23学級

本校は校訓「自主創造」を普遍的に育成を目指す不易として、学校教育目標「自分の考えをもち よりよく行動し 共に学びを広げる児童の育成」を社会の変化に応じて育成を目指す流行として位置付け、家庭・地域と目的を共有し、連携、協働する社会に開かれた教育課程の推進に取り組んでいます。学区は成田山参道の伝統文化が息づく地域をもち、青少年健全育成協議会が中心となって子どもたちに多様な体験の機会を提供するなど、地域の教育力を発揮しています。また、PTA活動は子どもたちの笑顔と安心に向けた学校支援を通して保護者の連帯を促進し、家庭の教育力を高めています。学校も体験的な活動の工夫に取り組み、外国人旅行者とのコミュニケーションを図る英語科の「参道活動」や保護者、地域人材をゲストティーチャーに迎えて社会的自立への展望を豊かに広げる「キャリアトーク」など、家庭や地域の特色を生かすことを通して、三者の連携、協働を培っています。



外国人旅行者と英語でコミュニケーションを図る「参道活動」



地域のゲストティーチャーから笑いと健康について学ぶ「笑医の会」



成田市立遠山小学校
(創立 明治35年)

児童数 24人
学級数 4学級

本校を取り囲むように整備された学校林「駒の森」は、長年にわたり地域の方々と守り育ててきた里山で、地域の誇りでありシンボルでもあります。カタクリの花やアカハライモリに代表される動植物を生かした学習を展開しています。また、保護者や地域の方々と共に落ち葉を掃くなど、年間を通して森の保全活動にも積極的に関わっています。「素敵な先輩シリーズ」と称した地域人材活用では、招聘した講師が有する専門的な技能を体験したり、生き方や自身の進路について考えたりするよう体験を通して、自己肯定感や学習意欲を高め、地域社会との繋がりを意識させることを目指しています。毎年4月には、地域在住の書家の先輩をお招きし、アドバイスを受けながら学級ごとに考えた本年の漢字一字を大筆で書き上げています。



「素敵な先輩シリーズ」
本年度の漢字は「駒」です



この作業でカタクリの芽が守られます



成田市立三里塚小学校
(創立 昭和25年)

児童数 336人
学級数 18学級

明治24年三里塚尋常小学校として発足し、遠山小学校三里塚分教場を経て、昭和25年に遠山村立三里塚小学校として開校しました。また、令和6年には、正門である「赤煉瓦門」が千葉県登録文化財に登録され、今もなお、子どもたちが登下校の様子を見守っています。

樹齢400年を超える「大榎」をはじめとする多くの樹木に囲まれた自然豊かな学校で、学校教育目標は「夢に向かってがんばる子ども」です。子どもたちに「夢や希望、目標」をしっかりとたたせ、あきらめずに挑戦して「わかった・できた」という成功体験を積み重ね、「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしています。また、遠山地区の小中学校では、小小及び小中連携を積極的に推進しています。互いに連携していくことで、9か年に渡り子どもたちの成長を支援していく体制を整えています。さらに、PTAや地域とも協力し、子どもたちがのびのびと育てる環境づくりを進めています。



「1年生を迎える会」
皆で楽しい時間を過ごしました



「おおえのき祭」
PTA主催のお祭りを楽しみました



成田市立久住小学校
(創立平成23年)

児童数 481人
学級数 20学級

学校教育目標「夢をめざし 心豊かに たくましく生きる児童の育成」のもと、「くじけず学習する子・ずっと仲良し心やさしい子・みんな元気でたくましい子」を目指して教育活動に取り組んでいます。

学区は成田市のほぼ中央に位置し、本校周辺の開発・宅地造成地区を囲むように水田地帯や畑作地帯、里山が広がる自然豊かな地域です。児童数は481名となり、本年度は特別支援学級4学級、通常級16学級の20学級となりました。保護者や地域の方々の教育への理解や支援がとても厚く、毎年、地域の伝統行事である「牛馬づくり」や食育・農業体験としての「米作り体験」など地域人材を活用し、豊かな自然の中で培われた伝統と文化を積極的に教育活動に取り入れています。本年度も、地域の文化や伝統に対する理解を図るとともに、国際交流活動の充実に努めています。



田植えから稲刈りまでの米作り体験学習
でお世話になりました【5年生】



「牛馬づくり」を地域の方にアドバイス
をもらいながら体験しました【6年生】



成田市立豊住小学校
(創立 明治22年)

児童数 42人
学級数 6学級

本校学区は、成田市の北西部に位置し、北は利根川、東は根木名川が注ぐ、緑豊かな田園風景が広がり郷土の文化や伝統が息づく歴史ある地域です。祖父母や保護者の多くが本校を母校とし、学校に対して非常に協力的です。本年度「ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成」を学校教育目標として掲げ、スローガンを「みんなで考え みんなでつくる 豊住小」としました。小規模特認校5年目になり、本校の特性を生かしたきめ細かな教育と体験学習を推進して、主体的に生きる資質・能力の育成を図っています。そして、教育活動を充実するために、英語教育をより一層推進したり、地域の人的・物的資源を積極的に活用したりしています。福沢諭吉翁由来の校訓「独立自尊」の教えを体得することを本校の「不易」とし、地域との連携を一層密にして、学校づくりを進めています。



成田空港での国際交流活動を実施し英会話の学習を生かしています



豊住未来プロジェクトでは、育てた野菜を販売し、地域との交流をしています



成田市立八生小学校
(創立明治6年)

児童数 72人
学級数 8学級

本校は明治6年に押畑学校として開校し、本年創立152年目を迎える伝統ある学校です。学区は、成田市街の中心より北西へ約3km離れた松崎・上福田地区の台地とその大地を取り巻くように大竹・宝田・下福田地区の平地地帯が広がり、緑豊かな自然に恵まれています。地域住民は、学校への関心が高く、行事や奉仕活動などのボランティアに大変協力的です。

学校教育目標「やさしく かしく すこやかに」のもと、基本的な生活・学習習慣の確立、体力向上、家庭・地域との連携を重点目標に掲げています。学校全体で詩の暗唱、漢字・算数検定、なわ跳び検定等に取り組んでいます。縦割り活動や海外の小学校との国際交流、豊住小学校と連携した教育活動など、小規模校のよさを生かして教育実践を行っています。さらに、地域の住民や県立成田西陵高等学校と連携して交流活動を推進しています。



稲作体験活動では、地域の方々と一緒に稲刈りを行いました



大銀杏交流会では、成田西陵高校の生徒さんから茜染めを教わりました



成田市立公津小学校
(創立 明治6年)

児童数 112人
学級数 8学級

創立152周年を迎える本校は、「心豊かで 自ら学ぶ たくましい児童の育成」—すべては 夢を抱き輝く 公津っ子のために！— を目標に掲げ、地域とともにある学校づくりを推進しています。

【あじさい運動】「(あ)かるい挨拶 (じ)ぶんから (さ)きに (い)おうね公津っ子」を柱に、相手のことを思い、自分から挨拶ができること。また、全校縦割り班での運動遊びを軸とした「杉の子班活動」や地域の方々とのふれあいを通して、自他を大切に、ともに認め合う心を涵養することを大切にしています。

4月11日に行った第1回学校運営協議会では学校経営方針について協議を行いました。また、保護者及び地域コーディネーター、公津っ子サポーター(学校支援ボランティア)、繋がる公津(地域の方々)の皆様と連携を深め、多様な学びから力を付けられるよう取組を進めています。



6年家庭科「いためる調理でおかずを作ろう」
公津っ子サポーターの学習支援



「全校歩行会」杉の子班で公津の杜公園
まで歩き、楽しく運動遊びをしました



成田市立向台小学校
(創立 昭和47年)

児童数 174人
学級数 9学級

成田ニュータウンの中に最初に開校した小学校で、中台3・4・5・6丁目を学区とし、周辺には公園が点在し、緑道が整備された緑豊かで静かな環境です。保護者の学校教育への関心は高く、環境整備、防犯等に関するボランティア活動にも協力的です。本校の学校教育目標は「新しい時代を創造する、心豊かで、たくましい児童の育成」であり、「花いっぱい・歌声いっぱい・笑顔いっぱい」という合い言葉のもと、174名の児童が各教科の学習をはじめとして、学校行事や花の栽培、運動・音楽等の活動に、熱心に取り組んでいます。

本年度は「『学び合い高め合う』力をつけるための教育活動の展開」「『心豊かで自分も相手も大切にする』心を育む教育活動の推進」「『心身の健康(体力の向上とレジリエンス)』を高めるための教育の推進」の3点を重点項目として掲げ、全職員が学校経営に参画し、チーム向台として学校教育目標の具現化に取り組んでいます。



花いっぱい活動



『心豊かで自分も相手も大切にする』
心を育む教育活動の推進



成田市立加良部小学校
(創立 昭和48年)

児童数 400人
学級数 18学級

成田ニュータウンの中心部に位置する本校は、飯田町・江弁須地区及びニュータウンの加良部地区で学区を形成する学校です。また、病気と闘いながら勉強している子どもたちのための院内学級が成田日赤病院内に設置されています。

本校では、タブレット端末等を利活用し、子どもたちの情報活用能力の育成を図っています。また、体験活動を充実させるために地域や保護者の協力のもと、子どもたちにより魅力的な学びの場を提供できるように力をいれています。昨年度は地域の高齢者クラブのご協力を仰ぎ、「昔の遊び教室」を復活させることができました。「《夢をもち 未来を拓く》確かな学力を身に付け、心豊かで、健康な子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、本年度も学校・保護者・地域との深い信頼と連帯の中で、「よく遊び よく学び よく働く からべっ子」を育てています。



「昔の遊び教室」
1年生が昔の遊びを体験しました



「地域ボランティアによる読み聞かせ」
読み聞かせを定期的に行いました



成田市立橋賀台小学校
(創立 昭和50年)

児童数 190人
学級数 9学級

橋賀台小学校は、昭和50年に成田ニュータウン3校目の小学校として開校しました。学区は橋賀台1～3丁目の集合住宅に囲まれた静かな教育環境の中にあります。校舎は3階建てで掃除も行き届いており、校庭は芝生に覆われたグラウンドと築山が自慢の学校です。子どもたちは清潔感ある環境下で、日々充実した学校生活を送っています。

学校教育目標に、「心豊かにたくましく生きる子どもの育成～夢に向かって、日々成長！～」を掲げ、全教育課程を通じ「あいさつができる子」「よく考え、学び合う子」「自分と友達の良さを認め合う子」の育成に力を入れています。

学力向上では、読書活動を基軸とした読解力や表現力を高める国語科教育を研究の中心に据え、るとともに、道徳教育、人権教育、福祉教育、環境教育など横断的な学習を行い、豊かな心を育てています。本年度も、粘り強く課題に向き合い、次代を切り拓く児童の育成に、職員一丸となって取り組んでいます。



高齢者疑似体験の様子



田植え体験の様子



成田市立新山小学校
(創立 昭和52年)

児童数 201人
学級数 10学級

本校は、成田ニュータウンの中央部に位置し、学区は加良部1、3、4、5丁目からなり、創立49年目を迎えました。校訓「みんななかよし 丈夫に育て」のもと、学校教育目標に「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる児童の育成 ～やさしく かしく たくましく 希望の登校 満足の下校の実現」を掲げ、多様な子どもたちを誰一人取り残さない温かな学校を目指しています。

特色ある教育活動として、思いやりやリーダー性を育成するため、縦割り交流活動「すすく班」での定期的なレク活動、長なわ跳び大会を行っています。本年度から、清掃活動も異学年で協力して行っています。また、地域の協力を得て、読み聞かせ、福祉体験学習、書き初め教室、昔遊び交流会などの体験活動の充実と豊かな心の育成を図っています。タブレット端末や生成AI等のICT利活用に力を入れるとともに、算数科学習の充実を図るため研究・研修を進めています。



ありがとうの会
縦割り交流活動「すすく班」



読み聞かせボランティア
「菜の花」による読み聞かせ



成田市立吾妻小学校
(創立 昭和53年)

児童数 561人
学級数 23学級

本校は、成田ニュータウンの西部に位置し、創立48年目を迎えました。学区周辺には多くの古墳が点在し、グラウンドにも4基の古墳があります。本年度の学校教育目標である「自他共に大切に、考えて行動する子どもの育成」をもとに、子どもたちは「大事な自分 大事な友だち I'm OK. You're OK!」を合い言葉としています。本年度、本校では委員会活動を無くし、学校のため、みんなのためになる活動で、自分がやりたいと思う活動を行うプロジェクト活動をスタートしました。5・6年生児童が自分の得意なことや好きなことを生かして、創意工夫を凝らしながら生き生きと活動を始めました。また、GIGAスクール構想により導入されたICT環境を活用し、学校内外におけるDX化にも力を入れています。子どもたちの安全を守る「スクールガードあづま」や吾妻小「おやじの会」、「吾妻・はなのき台地区青少年健全育成協議会」等、地域の方々との活動も活発で、ふるさと吾妻に支えられながら、子どもたちが生き生きと活動しています。



全校音楽発表会「ピッコロコンサート」



地域行事も盛り上がります！「逃走中」



成田市立玉造小学校
(創立 昭和56年)

児童数 165人
学級数 9学級

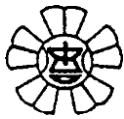
玉造小学校の学区は、成田ニュータウン北部の玉造1丁目から4丁目、そして八代から構成されています。保護者、地域ともに教育に関心が高く、本校の教育活動に大変協力的です。本年度も、教育目標を「心豊かで、たくましく生きる力を身につけた児童の育成」とし、教育活動の充実に努めています。特に、「正しく読み、表現できる児童」の育成を目指し、「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」「家庭・地域との連携」を重点目標にすえ、教育活動を進めています。特別支援教育にも力を入れ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を充実させています。また、学校支援地域本部を中心とした地域の教育力を生かし、農業体験学習や生き物体験、昔遊び、学区探検、読み聞かせ、書き初め練習会等を実施し、地域の方との交流を深めています。



「昔のあそび」
昔のあそびを教えてもらったよ！



「稲刈り」
黄金色に実ったお米を収穫したよ！



成田市立中台小学校
(創立 昭和57年)

児童数 140人
学級数 8学級

本校は創立44年目を迎えました。一昨年の9月に新校舎が完成し、早くも1年半が経過しました。学校教育目標を「かしこい子どもの育成」とし、「勉強する子(知)」「やさしい子(徳)」「元気な子(体)」の育成を目指しています。本年度は特に、「元気にあいさつできる、ここから『ありがとう』と伝える、相手の気持ちがわかる」の「3つのやくそく」を大切にしながら、子どもたちは、「集中・ぬくもり・清潔・秩序」ある学校生活を送っています。

学校は、緑豊かな落ち着いた中台地区に位置し、校内にもたくさんの花や緑があふれています。保護者・地域の関心も高く、PTAや社会福祉協議会・学校支援地域本部と連携しながら、子どもたちの学びの環境充実に努めています。



地域の皆様と緑道花壇を整備しました
「花植え活動」(4年)



食に関する指導を全学年で行いました
「食に関する指導」(3年)



成田市立神宮寺小学校
(創立 昭和60年)

児童数 130人
学級数 9学級

創立41年目を迎える本校は、成田NT北部にあり、近くには、成田スカイアクセス線成田湯川駅があります。保護者は全国各地から移り住んできていることから、新たなふるさとづくりをめざして「神宮寺祭り」「どんど焼き」等の文化活動や、各種スポーツ大会等独自の行事が定着してきました。保護者の教育的関心は高く、読み聞かせ・環境美化活動・リサイクル活動・防犯パトロール活動等のPTA活動も盛んです。また、隣接する成田北高校とは、先生や生徒による「おもしろ実験室」や教職希望生徒のインターンシップ等、交流を行っています。さらに、地域の学習ボランティアによる学習会「神小寺子屋」を毎朝開催し、学校支援事業として確立しています。このように学校と家庭、地域の連携が取れている環境の中、「心豊かでたくましく自分を信じてがんばる児童の育成」の学校教育目標に向けて、「よく学び、よく遊べ、感動いっぱい神宮寺小」を合言葉に全教職員が力を合わせて学校教育活動に取り組んでいます。



「神小寺子屋」で、自分で課題を決めて学習に取り組む様子



「ひまわりばたけ」の皆さんによる読み聞かせを楽しむ様子



成田市立平成小学校
(創立 平成2年)

児童数 566人
学級数 23学級

本校の学区は、成田市の南西に位置し、富里市・酒々井町と隣接した並木町・飯仲地区から成り立っています。国道51号線周辺に散在する古くからの街並みと、JR線南側（富里市側）に宅地造成の開発が進んだことによる、新しい地域が混在しています。

学校教育目標を「夢を抱き たくましく生きぬく 人づくりをめざして ～知・徳・体の調和～」としました。「夢を抱き」とは常に短期・長期の目標をもち、それを実現するための過程を大切にすることです。「知・徳・体」の三つを調和よく育み、生涯にわたり、夢を抱き、たくましく生き抜く人づくりを推進しています。へ：平和でいじめのない、い：いつでも夢・希望をもてる、せ：全力でがんばる子がいる、い：いっぱい感動がある学校を目指し、「なかよし班活動」や「縦割り清掃」等の縦割り班活動、地域団体との連携を行い、児童の主体的な活動や児童同士や外部との交流事業等を実施しています。



「こいのぼり遠足」



「ペットボトルツリー点灯式」



成田市立本城小学校
(創立 平成5年)

児童数 464人
学級数 20学級

本校は「たくましく、心豊かな子どもの育成」～夢と希望を笑顔で語る子どもたち～を学校教育目標に掲げ、児童一人ひとりが安心して楽しく学べる学校づくりを進めています。学校・家庭・地域が一体となり、信頼関係を築きながら教育活動を展開しています。校区では宅地造成が進み、児童数も年々増加し、学校周辺の町並みも日々発展しています。

近くには空港があり、社会科見学では空港ロビーやバックヤード、空港消防施設などを見学し、児童の学びを深めています。また、「本城小バザー」では昨年度は規模を拡大して開催し、保護者や地域の方々とのつながりを一層深める機会となりました。地域の支えを受けながら子どもたちは日々成長しています。



空港見学
空港の大きさを改めて実感！



本城小バザー
地域の方々との交流が深まりました



成田市立公津の杜小学校
(創立 平成18年)

児童数 583人
学級数 23学級

創立20周年を迎えた本校は、学校教育目標を「未来を拓く心豊かでたくましい児童の育成」と掲げ、子どもの「希望の登校、満足の下校」の実現を目指して、教育活動を行っています。

本年度は、①時と場所に合わせ自ら進んで元気よく挨拶できる子を育てる②自分で考える力・決断力・解決力を育て、行動できる子どもを育てる③人を思いやる心を育て、自分を大切にできる子どもを育てる④失敗を恐れずチャレンジし、最後まであきらめない意思の強い子どもを育てることを目指しています。算数科を中心に思考力・判断力・表現力の育成を目指し、校内研修の充実を図るとともに、教育相談体制を充実させよりよい人間関係づくりを推進し、どんな状況下でも楽しさとやりがい、体力の向上を実現させる体育科指導の改善に努めます。また、学校給食や家庭科指導において「おいしさ」を感じ、「おいしさ」をつくる力の育成と豊かに表現する力の向上に努め、学校生活の充実を目指しています。



学校生活の充実①
1年 虫とり



学校生活の充実②
ゆめまつり



成田市立美郷台小学校
(創立 平成19年)

児童数 323人
学級数 16学級

「日本一『幸せ』な学校～夢を持ち、夢を語ることができる学校～」を学校教育目標の具現化に向けたグランドデザインとして掲げ、目指す児童像を「自分で考え、自分で行動することができる子」としています。また、児童に身に付けさせたい4つの力を「人や物を大切にする力」「自分の考えをもつ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」とし、その育成のため教育活動に取り組んでいます。

8年目を迎える学校支援地域本部事業では、地域支援コーディネーターの力をお借りして、地域の人的・物的資源の活用を図りながら、「交通安全教室」「畑作り」「社会福祉体験」「ミシン学習」「昔遊び」など、多くの体験活動を取り入れ、地域の方との交流を通して、優しさや感謝の心、豊かな人間性を育んでいます。また、算数科の指導方法に関する研修にも力を入れ、思考し表現する力を高める指導を工夫し、学力向上を目指しています。



警察と交通安全協会の方々が
交通安全教室を開催



地域の方との畑作り



成田市立成田中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 498人
学級数 17学級

『「夢へ」～誰もが夢を持ち、その一歩を踏み出せる学校』を学校教育目標に掲げ、「思い」「約束」「感謝」をスローガンに、全職員一丸となり教育活動を実践しています。「元気な挨拶」と「さわやかな歌声」が響き渡り、誰もが夢や目標に向けて一歩を踏み出せるような活気ある学校づくりに向け、子ども達の主体的な活動を推進しています。また、授業では、「わかる授業」「楽しい授業」のために生徒の視点に立った指導方法の工夫改善に取り組んでいます。外国語教育において、「生きた英語力」を身につけさせるため、ALTを積極的に活用したコミュニケーション能力を高める授業づくり、数学科においては、チーム・ティーチングを取り入れたきめ細かな指導方法の工夫改善に取り組み、子ども達の学力の向上を図っています。PTA活動も盛んに行われ、地域に根付いた安心安全な学校を目指しています。



PTAバザー5年ぶりに開催
生徒・保護者の笑顔が溢れました



夢・実現講演会
オリンピック選手でOGの田中智美さん



成田市立遠山中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 410人
学級数 16学級

本校は、成田国際空港に最も近く、豊かな文化と長い歴史を有した中学校です。「人間性豊かで、自主共同の心を大切にする生徒の育成」を学校目標に掲げ、「素直・謙虚・感謝」の3つの心をスローガンにして教育活動を行っています。学習指導については、本年度から研究指定を受けた「ちばっ子の学びの変革」の実施について、指定教科である数学を中心に学校全体で主体的・対話的な授業、ICT機器を積極的に活用した授業を推進していきます。また、外国籍生徒への日本語指導など、生徒の実態に応じた個別支援を充実させることにより、生徒の基礎学力の向上を目指しています。

本校の学区は広域で9割以上の生徒が自転車通学をしているため、本校の生徒が学区内の小学校に出向き自転車の乗り方教室を行うなど、小中学校が連携しての交通安全教育にも力を入れています。



体育祭ダンス



入学式



成田市立久住中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 219人
学級数 9学級

本校の学区は、成田市の中央に位置し、学区内にJR久住駅があります。近年、久住中央地区の宅地開発に伴い生徒数が増加しており、全校生徒が219人となりました。今後も生徒が増える見込みです。平成23年度の学区小学校の統合によって一小一中学区となり、小中連携教育の推進に努めています。平成29年度には校舎増築棟が完成し、最新の設備と恵まれた自然環境のなかで子どもたちは学校生活を送っています。純朴で素直な生徒が多く、身体を動かすことが好きであり、学校行事や諸活動に積極的に取り組んでいます。学校教育目標の「一人一人の学びを大切にし、生きる力を育成する～学校・家庭・地域社会との連携および協働を通して～」のもと、明るく活気に満ちた学校づくり、学校に集うみんなが協力して学び合える学校づくりを推進しています。



総合的な学習の時間・伝承芸能



総合的な学習の時間・職場体験学習



成田市立西中学校
(創立 昭和39年)

生徒数 444人
学級数 17学級

学校教育目標の「前へ」という言葉には「挑戦するものがあるとワクワクする。毎日が楽しくなる。大きな目標も、日々の一步一步の積み重ねがあって達成できる。「挑戦」が西中を楽しくする。さあ、「前へ」進もう！」という思いが込められています。

激しく変化し続ける社会の創り手となる子どもたちに、前へ進めるための知力・体力・協力と深い優しさを持てるように「新たな学びの場の創造」を研究主題として、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めています。昨年度、新たにApple Distinguished School (ADS) に認定されました。ICT機器の便利さだけを重視するのではなく、新しい学習ツールを活用するからこそできる思考力・判断力・表現力を育成できる学習を行います。そして、「誰ひとり取り残さない」を合言葉に、全ての生徒に寄り添った教育活動を展開しています。



企業とオンラインで行った課題解決学習
(多目的室にて)



生成AIを活用した授業
(クリエイティブ・ラボにて)



成田市立中台中学校
(創立 昭和48年)

生徒数 216人
学級数 8学級

本年53年目を迎えた本校は、成田空港の開港に伴う整備事業の一環として、新住宅地開発に基づいて造成された成田ニュータウン内にあります。学区は、加良部、中台、米野地区からなっていますが、公津の杜中の新設にともない学区が再編され、加良部1丁目、中台、米野地区が学区となりました。学校目標である「自ら学び、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成」を目指し、日々教育活動に取り組んでいます。生徒は、学習に意欲的に取り組み、GIGAスクール構想により導入されたiPadの活用にも積極的です。また、体育祭や合唱コンクールなどの行事等にも大変意欲的に取り組んでいます。学校図書館の研究指定校(R4～R5)となったことを機に、自己表現力を高める活動に積極的に取り組み、市立図書館や学区内小学校と連携したり、保護者、地域に広く情報を発信したりしながら、主体的に学びに向かう生徒たちを育てています。



図書室を利用した学習に、積極的に取り組んでいます



防災教育の観点を取り入れた調理実習も実施しています



成田市立吾妻中学校
(創立 昭和53年)

生徒数 511人
学級数 16学級

成田ニュータウンの西に位置する本校は、橋賀台地区、吾妻地区、はなのき台地区及び隣接する船形地区の一部を学区とし、春には校地を取り囲む数十本の八重桜が美しい花を咲かせる素晴らしい環境に恵まれています。

学校教育目標として「次代をひらき、心豊かにたくましく、生きる力を身につけた生徒の育成」を掲げ、自ら課題を見出せる感性をもち、課題に対し前向きに取り組む方法を模索し、自己の決定したことを実践することのできる「気づき、考え、行動する生徒」の育成を目指し、社会の変化や本校の課題に即時対応できるよう、全ての教科において言語活動の充実を図る研究を進めています。

また、国際性やコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成するために、英語科授業の充実を図っています。



全校生徒が熱く燃えた体育祭



サンブルーノ市の中学生との交流



成田市立玉造中学校
(創立 昭和60年)

生徒数 197人
学級数 9学級

創立41周年を迎える本校は成田ニュータウンの北端にあり、玉造地区(1～7丁目)、八生地区の上福田・大竹・松崎及び公津地区の八代から学区が成り立っています。入学してくる生徒は、玉造小・神宮寺小・八生小の3校で9割以上を占め、本年度は合計197名で日々の学校生活を送っています。

学校教育目標は「徳・知・体の調和が取れ、未来を切り拓く力を持った生徒の育成」であり、玉造中学生として、夢や誇り、思いやりの心をもち日々の学校生活に取り組んでいます。また、平成27年5月に生徒総会で議決した、「挨拶・返事」、「学習」、「合唱活動」、「無言清掃」、「団結力」の「当たり前5項目」を当たり前にするように、全校生徒で声をかけ合っています。体育祭や合唱コンクールなどの学校行事への取組、クリーン作戦や資源回収などの地域行事にも積極的に参加しています。学校、保護者、地域が一体となって子どもたちの成長を支えています。



開校40周年記念トンネルアート制作



成田国際文化会館での合唱コンクール



成田市立公津の杜中学校
(創立 平成25年)

生徒数 645人
学級数 22学級

本校は、平成25年に生徒数497人で開校しましたが、生徒数は年々増加し、本年度は645人と、市内で最も大きな規模の中学校となっています。保護者をはじめ、地域の方々の温かな支援と恵まれた教育環境のもとで、生徒たちはのびのびと学校生活を送っています。学校教育目標は、「未来を拓く心豊かでたくましい生徒の育成」です。《生徒も保護者も職員も「公津の杜中でよかった」》と思える学校を目指し、学習や自治的活動、家庭・地域との連携による健全育成に取り組んでいます。近年はSDGsを意識した取組の一環として、配布物のペーパーレス化を推進しており、保護者宛に文書を電子配信するとともに、授業や学校行事にて配布する資料も必要に応じて電子化を図っています。その他に、数学科の授業においては、習熟の度合いにより2学級を3つに分けて3人の先生が指導を展開するなど、「分かる授業」の実践に向け、個別最適化に配慮した学習活動を展開しています。



生徒総会



数学科における少人数指導



成田市立下総みどり学園
(創立 平成29年)

児童生徒数 336人
学級数 19学級

本校は、平成29年に施設一体型の義務教育学校としてスタートし9年目を迎えました。「地域とともに夢と希望に向かってたくましく生きる下総っ子」を学校教育目標として、義務教育9年間を通した指導方針のもと、一人ひとりの子どもが着実に学力を身につけ、心身ともに健全で、豊かな人間性と社会性を発揮できる人間として成長していけるよう9年間の連続した学びを実践しています。そのために、9年間を前期(1～4学年)、中期(5～7学年)、後期(8・9学年)の3つのブロックに分け、それぞれの発達段階に応じた学習面・生活面の目標を設定して教育活動を行っています。縦割り班による清掃やなかよし活動など、様々な異学年交流活動は本校の特色の一つです。また、円滑な人間関係を築くことを目指しながら、地区の高校をはじめ地域とも積極的に連携し児童生徒の育成に努めています。



縦割り班での給食



下総高等学校での苗植え体験



成田市立大栄みらい学園
(創立 令和3年)

児童生徒数 499人
学級数 27学級

本校は、大栄地区の5つの小学校と1つの中学校（大須賀小・桜田小・前林小・津富浦小・川上小・大栄中）が統合し、令和3年度、新たに義務教育学校として開校しました。小学校・中学校の垣根（壁、区分、柵）をなくし、9か年を通してふるさと大栄を愛し、郷土として誇れる「大栄っ子」を地域とともに育てることを基本理念とし、「未来を切り拓き 社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成 ～自主自立 未来創造 郷土愛～」を教育目標に、5年目の学校生活を迎えました。

義務教育学校としての特色を生かし、全校を20の縦割り班に編制し、毎日の清掃活動や全校遠足、体育祭などの学校行事に取り組んでいます。教職員も小中それぞれで培った文化を融合させ、新たな学校づくりを児童生徒とともに推し進めています。



全校レク



縦割り班による清掃活動

成田市立大栄幼稚園
(創立 平成8年)

園児数 52人
学級数 3学級

本園は、成田市東部に位置し、大須賀川沿いの水田地帯を望む高台にあり、自然豊かな環境に恵まれ、大栄保育園や大栄B&G海洋センター・ナスパスタジアム等の公共施設も隣接しています。園児は、大栄地区のみならず市内の他の地域からも通園しており、広々とした園庭で、日々元気いっぱい活動しています。また、園周辺の地域を利用し、緑豊かな自然との触れ合いを大切にした保育を実施しています。「たくましく心豊かに生きる子どもの育成」を教育目標に、「明るく元気な子ども・自分のことは自分でする子ども・友達となかよく遊ぶ子ども・意欲がありねばり強い子ども」の育成を目指しています。

本年度は、15名の新入園児を迎え3クラス52名でスタートしました。保護者と連携を取りながら、園児が健やかに明るく元気に過ごせるように職員一同、より良い幼児教育に日々努めています。



お芋掘り
大きいお芋たくさん掘れたよ



おいしいおすしができたよ
お店屋さんごっこ！

5 学校給食センター

学校給食センターでは、学校給食を教育活動の一環として提供することにより、児童生徒の心身の健全な発達に資しています。

現在は本所、玉造分所、下総分所、大栄分所、公津の杜中学校学校給食共同調理場、本城小学校学校給食共同調理場、公津の杜小学校学校給食共同調理場、美郷台小学校学校給食共同調理場、平成小学校学校給食共同調理場で給食を調理しています。

(1) 食に関する指導の充実

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせ、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育むため、給食時間等の指導のほか、食に関する指導を行っています。

また、家庭教育学級や給食だよりなどを通じて情報提供を行うことにより、家庭における食育を促しています。



栄養教諭による食に関する指導

(2) 献立の充実

- ① 学校給食の食事内容が、衛生的かつ安全であることはもとより、栄養バランスのとれた魅力あるものとなるよう努めています。

また、食事は調理後できるだけ短時間に適温で提供できるよう、十分な配慮を行います。

- ② 献立作成及び調理にあたっては、児童生徒のし好の偏りをなくし、多様な食事内容に親しむことができるような食品の組み合わせや調理方法の工夫に努めます。
- ③ 学校給食の献立作成にあたっては、多様な食材を使用し、また、成田産の食材を取り入れた食事内容の充実及び摂取栄養量の確保に努めます。
- ④ 成田産食材の使用として、主食となる米飯は全て成田産コシヒカリを使用し、野菜についてもできるだけ成田産を使用するよう努めています。

(3) 衛生管理の推進

児童生徒を対象としている学校給食は、特に衛生管理（食中毒等の事故防止）に万全を期さなければなりません。そのため、学校給食センターでは、衛生管理体制を確立し、原材料及び調理後の食品の温度管理の徹底や二次汚染防止等に努めています。

また、職員の健康管理等を行うとともに、保健所の指導、助言を受けつつ、調理作業、衛生管理に努めています。

児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準

区 分	基 準 値			
	児童（6歳～7歳） の場合	児童（8歳～9歳） の場合	児童（10歳～11歳） の場合	生徒（12歳～14歳） の場合
エネルギー（kcal）	530	650	780	830
たんぱく質（％）	学校給食における摂取エネルギー全体の13％から20％			
脂質（％）	学校給食における摂取エネルギー全体の20％から30％			
ナトリウム （食塩相当量）（g）	1.5未満	2未満	2未満	2.5未満
カルシウム（mg）	290	350	360	450
マグネシウム（mg）	40	50	70	120
鉄（mg）	2	3	3.5	4.5
ビタミンA（ μ gRAE）	160	200	240	300
ビタミンB1（mg）	0.3	0.4	0.5	0.5
ビタミンB2（mg）	0.4	0.4	0.5	0.6
ビタミンC（mg）	20	25	30	35
食物繊維（g）	4以上	4.5以上	5以上	7以上

- 表に掲げるもののほか、次に掲げるものについても示した摂取について配慮すること。
亜鉛……児童（6歳～7歳）2mg、児童（8歳～9歳）2mg、
児童（10歳～11歳）2mg、生徒（12歳～14歳）3mg
- この摂取基準は、全国的な平均値を示したものであるから、適用に当たっては、個々の健康及び生活活動等の実態並びに地域の実情等に十分配慮し、弾力的に運用すること。
- 献立の作成に当たっては、多様な食品を適切に組み合わせるよう配慮すること。

（４）地域との連携

本市の給食についての考え方や取組を伝え、実際に味わっていただくことで、給食の良さを広く市民に伝えることを目的とした「なりたの5つ星給食レストラン」を開催しています。

（５）給食施設の整備

学校給食センター本所、玉造分所の老朽化に伴う施設の再整備にあたり、児童生徒にとってよりよい給食環境の構築を図るため、平成21年度に施設整備基本計画を、平成22年度に施設整備実施計画を策定しました。その後、平成26年度に実施計画を見直しました。この実施計画に基づいてアレルギー対応食の提供、温かい給食の提供及び食育の推進が可能となる親子方式（※）による施設の整備を進めています。



平成小学校学校給食共同調理場

※敷地に余裕のある学校に給食施設を設置し、近隣のいくつかの学校に配食する方式

なお、学校給食センター本所につきましては、愛光園跡地へ移転・再整備することとして、令和6年度から建設工事を行っており、令和8年9月からの供用開始を予定しています。



整備中の学校給食センター本所

（６）学校給食費無料化

令和4年4月から多子世帯における子育てに対する経済的負担の軽減を図るため、子を3人以上扶養している保護者を対象として、一定の要件を満たす場合に、市立小中義務教育学校に通う第3子以降の学校給食費を無料としています。

さらに、令和5年4月からは、進路の決定や入学までの費用など、特に経済的負担が増加する中学校3年生及び義務教育学校9年生、並びに経済的な負担が大きいひとり親家庭の児童生徒の学校給食費を無料としています。

（７）食物アレルギー児等学校給食費相当額助成

令和5年1月から、市立小中義務教育学校に通う子が食物アレルギーなどの理由により給食の提供を一切受けられず、毎日弁当を持参している場合に、学校給食費相当額を助成しています。